

📞「災害用伝言ダイヤル171」の体験利用を実施します📞

防災係の小山です。先日は「災害時の対応に関するアンケート」にご協力いただきありがとうございました。アンケートの結果は後日お知らせする予定です。

防災訓練で話をしましたが、「災害用伝言ダイヤル171」の体験利用を11月1日(水)のSHR時に行います。家族と別々の場所で被災した場合、家族の安否をいち早く知りたいと思いますよね。皆さんはそんな時、どういう手段で連絡をとりますか？東日本大震災では通信回線がつながりにくくなり、安否確認に手間取るケースが多々あったようです。今回体験利用をしてもらう「災害用伝言ダイヤル171」は、地震・噴火などの災害の発生により被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。実際に体験利用をしてみることで、安否確認の手段として機能するかどうか、家族で話し合ってみましょう。

11月1日(水)のSHRでは、「171」へダイヤルし、メッセージを録音してもらいます。体験利用に向けて準備してもらいたいのは以下の2点です。

①メッセージの録音・再生の識別に使う電話番号を家族で決めておきましょう。

録音・再生の際に電話番号の入力を求められます。その番号を、録音する側と再生する側とで共有しておく必要があります。自宅の電話番号を使うケースが多いようです。固定電話がない家庭では誰かの携帯番号など、予めどの番号を使うか決めておきましょう。

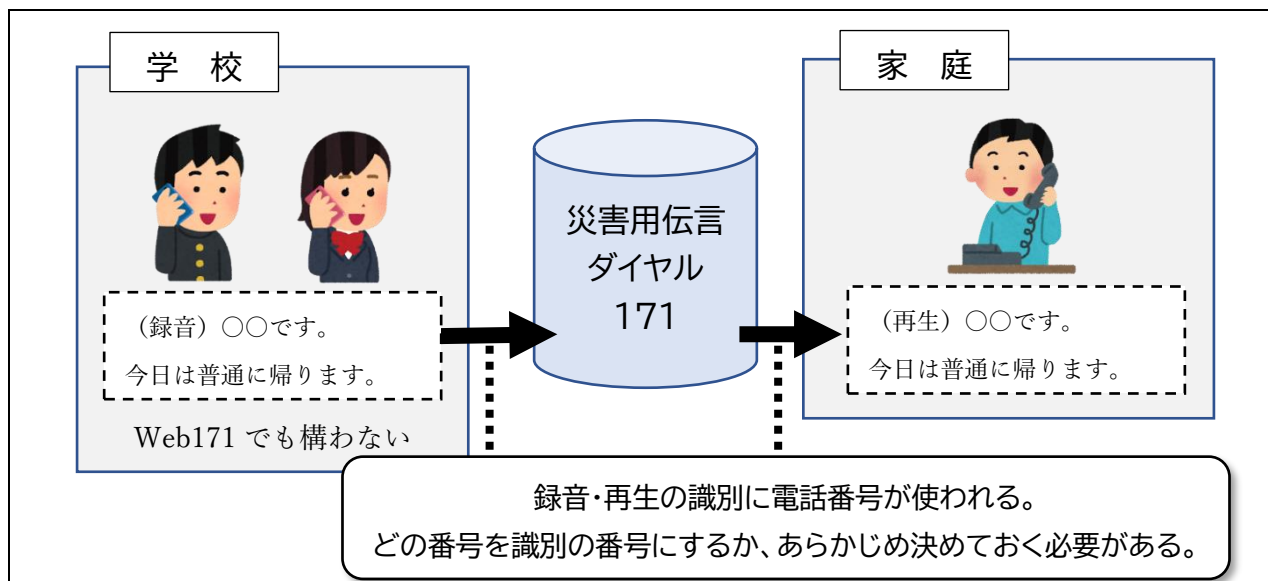
識別に使う電話番号(市外局番から) _____

※これを機に、災害時に実際使う番号を家族で決めておくといいですね。

②録音するセリフを考えてみましょう。

今回は練習です。緊張せず、気楽にメッセージを録音してもらえればOKです(セリフは何でも良い)。ただ、この機会にどんなメッセージが有効か、是非考えてみてください。

録音できる時間は30秒。実際の災害時のことを考えると、決して十分な時間とは言えないと思います。合言葉は「あ・い・た・い・よ」。「あなたの名前は？・いまいる場所は？・だれと一緒に？・いたいところはあるか？(安否)・よこく(次の連絡はいつか?)」この5つの項目を伝えると良いそうです。これを参考に、どんなメッセージを残すのか、考えてみてください。



◎当日自宅に帰ったら、家族に再生してもらいましょう。